
平成 31 年度 東京未来大学入学式

学長式辞

皆さん、ご入学おめでとうございます。

東京未来大学への入学を心より歓迎すると共に、ご臨席いただきました保護者の皆さまに心よりお祝い申し上げます。本学を選んで下さった皆さんの期待に添えるよう、私たち教職員一同しっかりと皆さんを支援していきます。

■東京未来大学の小史と学びの特徴

東京未来大学は、学校法人三幸学園が足立区の大学誘致政策を受けて、平成 19（2007）年に開学し、この新年度で 13 年目に入りました。皆さんの主たる学びの場となるメインキャンパスは、元は足立区立の中学校でした。保護者の皆さまの中には懐かしく思い出す方もいらっしゃるかもしれませんが、テレビドラマ「3 年 B 組金八先生」で武田鉄矢扮する金八先生が活躍した「桜中学」は、この中学校の校舎が舞台になっています。

大学の現在に話を戻せば、こども心理学部（心理専攻、保育・教育専攻）では 3 月で 9 期生が巣立ちました。就職率も安定して高く、卒業生を採用いただいた保育園・幼稚園、企業等から高い評価をいただいています。モチベーション行動科学部では、4 期生が卒業しました。すでに社会に出ている卒業生たちの中には、社会人として活躍しながら大学院に進学した者もいます。

通信教育課程は、大学開学時にこども心理学部が、そして平成 25（2013）年にモチベーション行動科学部が開設されました。社会人として働きながら学びを目ざす人、資格取得を目ざす人、学びたくともさまざまな事情で通学が困難な人たちが主に在籍しており、これまでに約 1800 名が卒業しています。

本学の学びの特徴は、2 つのサイクルの融合にあります。すなわち、幅広い教養と高度な専門的知識・技能を身につけるための教育（教学サイクル）と、未来祭や三幸フェスティバル、地域連携活動等のプロジェクトを通じての教育（プロジェクトサイクル）が並行

して展開され、学生はこの2つのサイクルの中で学ぶことで、自ら
がもつ可能性のさらなる広がりを目ざします。

学びの面では、私たち教員だけでなく、他大学に類をみない本学
独自の教育システムであるキャンパスアドバイザー（CA）が、そし
てエンロールマネジメント局職員が全面的に支援します。ですか
ら、皆さんは安心して大学生活を送り、勉学に励んで下さい。

■学ぶということの意味について

さて、皆さんはいまここに、東京未来大学学生となりました。明
日からは早速大学生としての学びの準備に入りますが、皆さんは、
学ぶということの意味をどのようにとらえているのでしょうか。

「知らなかったことを知る」というのも学びです。新しい知識の
獲得です。けれども、これは学びの入り口です。スマートフォンや
パソコンでインターネットにアクセスすれば、ほしい情報がいつで
も簡単に手に入ります。そこからさらに多くの知識を得ることもで
き、新しい興味や関心も広がります。この「新しい興味や関心の広
がり」が、次の学びにつながります。つまり、知って考えること
で、知はさらに広がりや深まりを増してきます。知るとは知識の引
き出しを増やすこと、考えるとは引き出しの中身を充実させること
ともいえます。

そうすると、その先がさらに見えてきます。今度は自分で仮説を
立てて、それを実証してみることです。実証することで、それは皆
が共有できる新しい知になっていきます。私は心理学を専門として
いますが、心理学では目に見えないものを対象とすることが多くあ
ります。「心」は目に見えないものです。「知能」や「パーソナリ
ティ」も目には見えません。そもそもそれが実体として存在するか
どうかもわかりません。これらは構成された概念といえます。私た
ちは、その概念を手がかりに、さまざまな方法や手段を用いて、行
動のメカニズムや心のありようを探究しているのです。

このように、概念を操作しながら物事の本質に迫っていくため
には、偽物（フェイク）の知識ではなく、根拠のある知識を得ること
と、その知識に基づいて論理的に考えていくことが大切です。イン
ターネットで簡単に手に入る情報の中には、フェイクなものも少な
からずあります。私たちが授業やゼミを通じて皆さんに提供するの
は、専門的な研究・研鑽に基づき、根拠のある知識と、物事を論理

的に考える視点と方法です。これからの学びの中で、ぜひ身につけて育って行って下さい。

もちろん私たちは、皆さんに一方的に知識を与えるだけの授業はしません。本学では、学生が主体的に考え、自ら答えを導くことができるような、能動的な授業を展開しています。私たちが皆さんに提供するの、皆さんが考えるためのヒント、手がかりです。皆さんはその手がかりをもとに、教員やクラスメートやゼミ仲間たちとの議論・討論を通じて、知の世界を広げ、自らが拠って立つ思考の足場を固めて行って下さい。

そのために私が皆さんに勧めるのは、本を読むことです。最近は電車の中で本を読んでいる人よりも、スマホを覗いている人の方が多くなりました。もちろん、スマホで重要な情報に接している人もいるでしょうし、スマホで読書を楽しんでいる人もいます。私が勧めるのは大学の図書館を利用することです。図書館には、これからの皆さんの学びにとって参考となる専門書や関連書籍もたくさんあります。時間つぶしで立ち寄ってみるのもよいでしょう。そこで何気なく手に取った1冊が、進むべき道を照らしてくれるかもしれません。最近は本を読む学生が非常に少なくなったことが、調査などでも明らかになっています。大学生になった今のうちに、ぜひ読書の習慣を身につけ、学びの糧にして下さい。

■充実した大学生活のために

つい先日、オリックスを経てメジャーリーグで長年にわたり素晴らしい活躍を見せてくれたイチロー選手が、28年にわたる野球選手生活にピリオドを打ちました。引退表明後の記者会見の中で、イチロー選手は子どもたちへのメッセージを求められ、こんなことを言っています。「野球だけでなくでもいいんですよね。始めるものは、自分が熱中できるもの、夢中になれるものを見つければそれに向かってエネルギーを注げるので、そういうものを早く見つけてほしいと思います。それが見つければ、自分の前に立ちはだかる壁に向かっていける。向かうことができると思います。」

イチロー選手のメッセージは、子どもたちだけでなく、多くの大人たちにとっても勇気が湧いてくる言葉だと思います。皆さんもぜひ自分が熱中できるものを見つけて下さい。ただし、私は皆さんに対しては、「大学生として」という前置きをつけて、自分が熱中で

きるもの、夢中になれるものを探してほしい。せっかく大学に入学したのですから、学業や大学生活を疎かにして他のことに熱中するのは考え物です。4年間充実した大学生活を送ることができるという視点から、イチロー選手の言葉を実践してほしいと思います。

■人を活かし、世の中の困難を希望に変える

最後になりますが、本学は「技能と心の調和」ということを教育理念としています。これは、心と磨いた技能をうまく調和させて活かすことを意味しています。そしてこの教育理念に基づき、「教育・研究・社会貢献機能を通じて、人を活かし、世の中の困難を希望に変える」という使命（ミッション）を掲げています。

真理を探究する心、他者を思いやる心、感動する心をもつこと。身につけた知識や経験を活かして、その心をさらに豊かなものに磨いていくこと。その技能と心の調和を、自ら考え自ら行動することで、生活の場での実践に活かしていくこと。そして周囲の人々を元気づけ、困難な課題を克服して希望の道を開くこと。これが、東京未来大学が目ざす教育の成果であり、本学での学びの先にあるものです。

ほんの小さなことであってもかまいません。世の中の困難を希望に変えるために、自分は何ができるか、ぜひ考えていただきたいと思います。そして卒業時には、本学での学びの成果を携えて、ほんの小さな困難であっても、それを希望に変えることのできる力を身につけて下さることを心より期待して、私から皆さんへのお祝いの言葉といたします。

あらためて、ご入学おめでとうございます。

平成31年4月1日 学長 角山 剛

角山 剛